

## 県中南部の水稻でトビイロウンカが発生

岡山県病害虫防除所の調査によると、9月3～5日の巡回調査において、県中南部の圃場でトビイロウンカの発生が確認されました。地域別の株当たり虫数は、県中部で0.14頭（平年0.72頭）と平年より少ないものの、県南部で0.69頭（平年0.35頭）とやや多くなっています。発生圃場率は、県中部で4.8%（平年9.9%）と平年より低いものの、県南部で22.9%（平年8.1%）とやや高い状況にあります。また、一部の圃場では増殖率の高い短翅型雌成虫の発生が見られました。

次世代幼虫の発生最盛期（防除適期）は、赤磐市の予察灯への飛来状況から9月下旬と予想されます。広島地方气象台発表の季節予報によると、今後の気象条件は本虫の発生をやや助長する条件であり、晩生品種の栽培圃場で本虫の発生が多い場合、坪枯れ等の被害が発生する恐れがありますので圃場をよく観察する必要があります。

### < 防除対策 >

- (1) 要防除水準（成幼虫合計で株当たり10頭以上又は短翅型雌成虫で株当たり0.2頭以上）を超える圃場では、直ちに防除を実施する。なお、本虫は圃場内で局所的に生息するため、調査に当たっては圃場の中央部まで入って株元をよく観察する。
- (2) 農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、表1の単剤あるいはその成分を含む混合剤を安全・適正に使用する。また、散布に当たっては薬剤が株元まで十分到達するよう留意する。
- (3) 収穫期に近い場合、薬剤散布は特に農薬使用基準の収穫前日数をよく確認して行う。

表1 水稻におけるトビイロウンカの主な防除薬剤

薬 剤 名	農 薬 使 用 基 準		
	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用濃度・ 使用量
トレボン粉剤DL <sup>1)</sup>	7	3回以内	3～4kg/10a
MR. ジョーカー EW <sup>1)</sup>	14	2回以内	2,000倍
MR. ジョーカー粉剤DL <sup>1)</sup>	7		3～4kg/10a
ベストガード水溶剤	14	4回以内	2,000～4,000倍
スタークル・アルバリン粉剤DL	7	3回以内	3kg/10a
スタークル・アルバリン顆粒水溶剤	7		3,000倍
ダントツ粉剤DL	7	3回以内	3～4kg/10a
ダントツ水溶剤	7		4,000倍
アプロード水和剤	7	4回以内	1,000～2,000倍

<sup>1)</sup> の薬剤は水産動植物に対する危害が発生しやすい地域および発生するおそれのある地域では使用しない。

農薬容器のラベルをよく読み、各単剤の有効成分を含む農薬の総使用回数を守る。